

# 第1日目 オアフ島ホノルル

2018年1月13日(土)晴れのち曇り 最高気温27度

成田空港発 NH184 便は定刻 08:25am にホノルル空港に着いた。

この日の名古屋の最高気温は6度、最低気温は－3度である。

ここホノルルは気温23度である。

20度以上も違う。

この時期の旅行で最も気を遣うのは服装である。

この日は長袖ポロシャツに薄い毛糸セータを着て半袖と長袖の下着を重ね着し、冬物の靴下を履いていた。

念のためダウンを持参していた。

ハワイでこの格好はさすがに暑い。

空港を出るなり現地用の服装に着替えた。

当初は成田空港に着ていた冬物を預けることも考えたが、空港のコインロッカーの使用期限は連続8日間までなので使えず、手荷物預かり所に預けるのも面倒なのでそのまま着てきた。

日本から着てきた冬物は旅行中に持ち歩くのでダウンなど圧縮袋に小さく収まる物が重宝する。

Pride of America の乗船時間 12:00am までは少し時間があつたので、タクシーでホノルル港まで行き、大きな荷物を預けてからアラモアナショッピングセンターで時間を潰すことにした。

空港から港まではいくつかの会社の送迎サービスがあるが、飛行機の遅延などを考えるとタクシーが一番手っ取り早く気が楽である。

タクシーの運転手に最初に港に行って荷物を預けてからアラモアナに行く旨を伝えた。

港に着くと港周辺は、今朝、クルーズを終えたばかりのゲストでごった返していた。

ゲストは港に荷物を預けて夕方までホノルル観光を楽しんでから帰国するのだろう。

港には NCL 社専用の倉庫のような造りの建物があり“Pier2”と呼ばれている。

タクシーで港に行くには住所よりも『Pier2』か『NCL Ship』と言うほうがわかりやすい。

この建物は乗客がいなくなる 10:00am から 11:00 までは閉鎖される。

荷物預かり所は建物に入って右側奥にある。

大きさに関係なく 1 個\$5 である。

荷物を預けて建物を出ると乗って来たタクシーがない。

多分、時間がかかったので他の上客を乗せて行ってしまったのであろう。

こんなことは、インドや東南アジアで嫌というほど経験済みである。

インドならタクシー代は最終目的地まで払わないがアメリカなので大丈夫だと思った。

別のタクシーを捕まえてアラモアナショッピングセンターまで行くことにした。

幸いにも今朝ついたゲスト待ちのタクシーが数台いた。

今度のタクシー運転手は見るからにサーファーのような風貌で、信号待ちの際には運転席にあったウクレレを弾いて歌まで歌ってくれた。

運転しながら盛んに『ビッグウェーブ、ビッグウェーブ』と言っていたので、オアフ島のオフショアにはビッグウェーブが来ているのだろう。

私たちを『ビッグウェーブツアー』に誘っていたのはわかっていたが、英語が理解できないフリをして押し黙っていた。

アラモアナでは娘へのお土産の下調べをした後に軽いランチをとった。

初めてのハワイで、初めての観光で、初めての行動が娘のお土産の下調べである。

港には乗船1時間前の11:00amに戻った。

港には朝より大勢のゲストがいた。

私たちと同じクルーズに乗るゲストが集まっているのである。

実は日本を発つ前夜、NCL社日本代理店から突然メールが届いた。

マウイ島とカウアイ島に寄港する順番を入れ替えるとの連絡である。

変更理由はマウイ島周辺の天候悪化とカフルイ港の高波である。

| オリジナル |     |                   |           | 変更後               |           |
|-------|-----|-------------------|-----------|-------------------|-----------|
| Date  | Day | Port              | Arr/Dep   | Port              | Arr/Dep   |
| 1/13  | Sat | Honolulu, Oahu    | 0700/1900 | Honolulu, Oahu    | 0700/1900 |
| 1/14  | Sun | Kahului, Maui     | 0800/OVN  | Nawiliwili, Kauai | 0800/OVN  |
| 1/15  | Mon | Kahului, Maui     | OVN/1800  | Nawiliwili, Kauai | OVN/0900  |
| 1/16  | Tue | Hilo, HI          | 0800/1800 | Hilo, HI          | 0800/1800 |
| 1/17  | Wed | Kona, HI          | 0700/1730 | Kona, HI          | 0700/1730 |
| 1/18  | Thu | Nawiliwili, Kauai | 0800/OVN  | Kahului, Maui     | 0800/OVN  |
| 1/19  | Fri | Nawiliwili, Kauai | OVN/1400  | Kahului, Maui     | OVN/1800  |
| 1/20  | Sat | Honolulu, Oahu    | 0700/1900 | Honolulu, Oahu    | 0700/1900 |

これはメールに添付されていた図である。

オリジナルでは、オアフ島→マウイ島→ハワイ島と順々に南下してから、一気にカウアイ島に北上する航程である（時計回り）。

変更後では、最初にオアフ島から北上しカウアイ島に行き、その後、一気に南下してハワイ島→マウイ島→オアフ島に戻ることになる（反時計回り）。

天候悪化では仕方がない。

さほど、気にしないで日本から旅立った。

建物の中に入ると係員が大きな声で何か叫んでいる。

船の航程変更を告げているようだ。

航程変更については、日本を発つ前にメール連絡を受けていたので慌てることはなかった。

しかし、手渡された資料を見て驚いた。

私が受け取ったメールの内容と違うのである。

手渡された資料では航程はオリジナル通りで、マウイ島の停泊地がカフルイ港からラハイナ港に変更されていた。

そして、ラハイナ港には1日のみの停泊となっていた。

近くの乗客に聞くと資料と同じ内容のメールをNCL社から2日前に貰っていたと言っていた。

私に届いたNCL社日本代理店からのメールは一体、何だったのだろう。

この航程ではマウアイ島が1日になってしまいマカワオ観光ができなくなってしまう。

航海ではなく後悔になってしまう！

当初の予定ではマウイ島ではラハイナとマカワオを観光する予定であったが、マカワオ観光が出来なくなった。

マカワオはハレアカラのやや山腹にあり牧場や農地が広がるパニオロ(ハワイアン・カーボーイ)の小さな町である。

カーボーイの発祥は何とアメリカ本土よりも古く、近年では工芸家や画家などの芸術家などが集まりだして風情ある街並みは残しつつ芸術の町として様変わりしてきている。

私たちの感性に合っている町のようなのでマカワオ観光を楽しみにしていた。

明日はマウイ島に停泊することなく、一昼夜、マウイ島周辺の航海である。

クルーはマウイ島ラウンドクルージングと言っていた。

---

航程変更には後日談がある。

NCL 社の説明ではマウイ島周辺の天候悪化によりカイフル入港が出来ないとの事である。

しかし、船がマウイ島周辺を航行していた時には雲は出ていたが晴れていた。

多少の波はあったが航行にはまったく支障がない。

なぜ天候状態でカイフル港に入港できないのか疑問であった。

この疑問はたまたまデッキで出会ったオフィーサからの説明で解けた。

Pride of America はカイフル港に入港しないのではなく出来ないのである。

大型船が港に入るには入港許可が必要になる。

当日、アメリカ本土からプリンセスクルーズ社『グランド・プリンセス』がハワイクルーズに来ておりカイフル港に入港していた。

カイフル港は小さな港なので大型船は1隻が入港するのがやっとである。

Pride of America は『グランド・プリンセス』に港の停泊権を譲ったのである。

Pride of America がカイフル港に入港しない理由はわかったが、NCL 社が乗客に天候不良と説明した真意は未だに不明である。

---

乗船時間 12:00am には建物の中には長蛇の列ができていた。

何しろ、2,000 人を超えるゲストがチェックインするのである。

一体、どうなることかと心配していた。

しかし、係員も慣れたもので驚くくらいのスピードでチェックインは行われた。

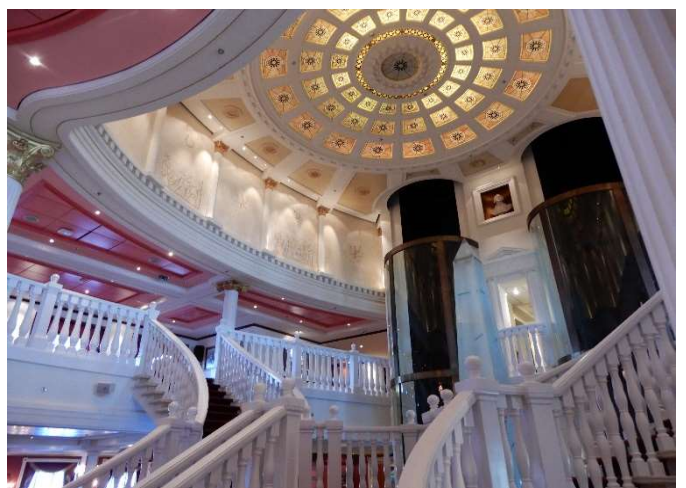
セキュリティチェックの後に乗船手続きが行われ1枚のプラスチックカードが渡される。

これはフリースタイルカードと呼ばれ、部屋の鍵、船内チャージ、乗船券の3つの役割を果たす大切なカードである。

船内では現金は不要であり、このカード1枚ですべて済む。

当然、後で清算はあるが…

私たちを最初に迎えてくれたのはデッキ5にある広々とした『Capital Atrium』である。



中央奥がこれから何かとお世話になるゲストサービスカウンターである。

ここでは日本人スタッフ（みどり＆みか）の日本語サポートが受けられる。

まだ、準備ができていないので船室には入れない。

デッキ11にあるプールサイドで待つことにした。

プールサイドには多くのゲストが居た。

皆、思い思いに楽しんでおりこれからのクルーズに期待していた。



若い時なら船内探検でもやるのだろうが、その気力も体力もない。

デッキ 11 のアロハカフェで軽いランチを済ましプールサイドで日本から持参した本を読む。

今回は『原始仏典』に関する本を多めに持参した。

それにしてもこの船は大きい。

これまでもクルーズ体験は何回かあるが総トン数で比較すると 2.5 倍から 3 倍は大きい。

日本の誇る『飛鳥Ⅱ』でも 5 万トンである。



船室が用意できるとデッキごとに入室案内がある。

私たちの部屋は9105号室である。

内側の部屋で窓はなく当然バルコニーはついていない。

ただ、寝るだけのシンプルな部屋である。



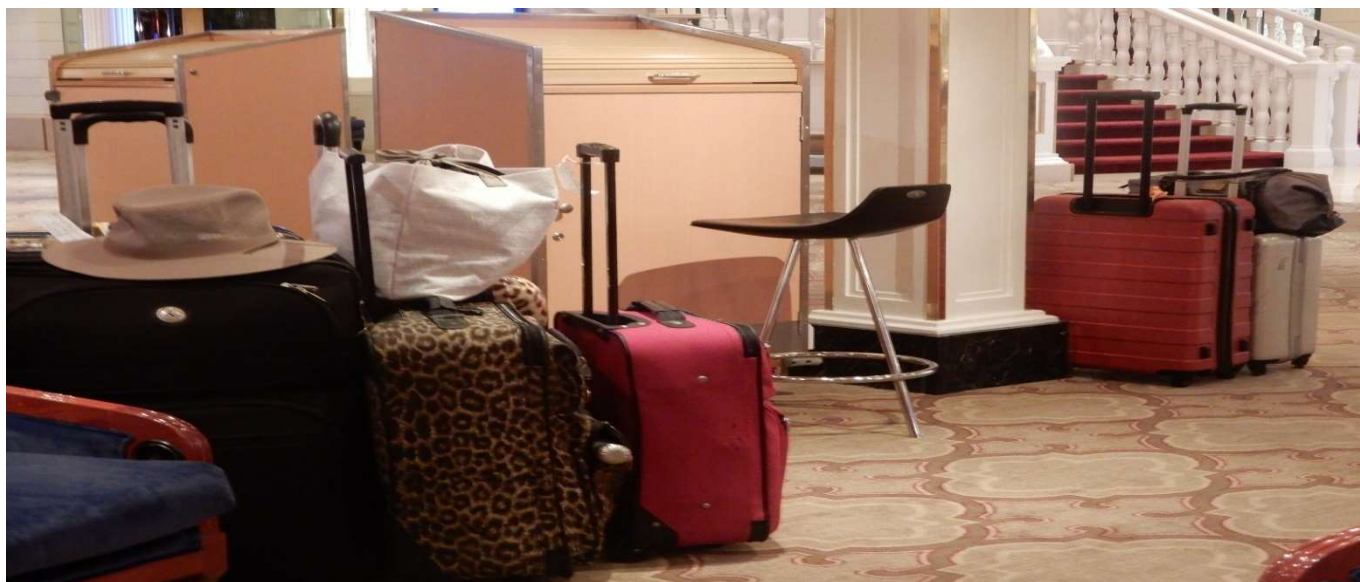
04:00pm 頃にデッキ 9 の入室案内のアナンスがあった。

部屋の前には乗船時に預けておいた荷物が届いていた。

クルーズではいつも荷物が多めになるので今回は数を少なくして小さめのバッグにした。

他のゲストの荷物の 1/2 から 1/3 くらいだと思う。

(手前はあるゲストの荷物、奥が私たちの荷物)



本日のイベントは、日本語乗船説明会 03:30pm と乗客避難訓練 04:45pm である。

日本語乗船説明会は日本人の乗船者数に応じて開かれるらしい。

今回のクルーズでは私たちのような個人旅行は 4 組 8 名であったが、団体ツアーが 2 組あり約 30 名もの日本人参加者があった。

ちなみに、どちらのツアーも世界中を席卷している鉄道会社系旅行会社である。

Pride of America には日本人スタッフが乗船しており、日本語クルーズ説明会、日本語『FREESTYLE DAILY』発行などのサポートが受けられた。

アメリカの船を選んだ理由の一つが『非日常の旅』なので英語漬けはある程度は覚悟していたが、Pride of America は日本人に対するきめ細やかなサポートがあり助かった。

乗客避難訓練は国際安全基準で出航の 24 時間前に全員に義務付けられている。

今回の避難訓練では救命胴衣は装着不要なので楽だった。

この船には 2,700 名分の乗客用救命ボートと 1,820 名分の乗務員用救命ラフトボートが用意されている。

どうか、使うことの無いように…

乗客避難訓練を終えた後、部屋のシャワーを浴びアロハカフェで夕食をとる。

Pride of America には 12 のレストランがあるが、ランチをしたアロハカフェがブッフェスタイルであり今夜はここで手軽に済ませた。

Pride of America の楽しみの一つはエンターテインメントである。

アメリカ船らしくブロードウェイ風ショーが毎夜『ハリウッドシアター』で行われる。



(劇場内部は撮影禁止。NCL 社 HP から流用)

1 回公演の時は 07:00pm から 08:30 の間に行われ、2 回公演の時は 06:30pm から 07:00pm の間と 08:30pm から 09:00pm の間に行われる。

今夜は『アロハ・ポリネシアンショー』である。

タヒチ、ニュージーランド、サモア、トンガのダンスと音楽を楽しんだ。

『ハリウッドシアター』は基本的には自由席である。

基本的という意味は中央の 1 部が予約席になっている。

これは特別室のゲスト用であるらしい。

後日、バトラーらしき人が案内していた。

夜、展望デッキに出て夜のホノルルの街並みを見る。

遠くに見えるのはアロハタワーの灯りである。



空には無数の星が瞬いている。

乗客は思い思いの行動で展望デッキは静まり返っている。

明日からのクルーズへの期待がだんだんと高まる。

船内見学は明日以降にすることにして部屋に戻り少し早いベッドに入る。

深夜 12:00am、Pride of America は静かに Pier2 を離れた(ハズである)。

私たちは前夜の夜間飛行の疲れからとつくに爆睡中 …